

平成30年8月20日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：木村、田中、手嶋、今野

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

137号



市民ガイド月例会の開催

8月1日(水)に月例会を開催しました。

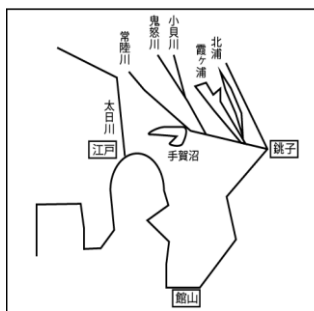
猛烈な暑さが続いたため、7月下旬からガイド活動を休止させていただきました。一体、地球の気温は、どこまで上昇してしまうのでしょうか…。これからは、暑さに加え、台風の発生も多くなりますので、備えを万全にお過ごしください。

「布佐河岸」の誕生 辻より

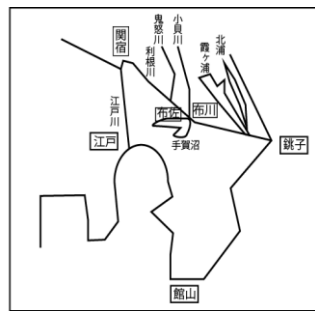
今回は、第1弾として「布佐河岸の誕生」をテーマに、お話をしました。

1. 「布佐河岸」の誕生

江戸時代の初め頃、幕府は東北地方からの安定した物資輸送ルートを確認するため、利根川(常陸川)を江戸川(太田川)に掘りつなぎ、銚子から関宿を経由して江戸までの水路網の整備を行いました。この河川改修事業を「利根川の東遷」といい、これにより、「布佐河岸」は誕生しました。



「利根川東遷」以前



「利根川東遷」以後

◆利根川の河川改修史

・文禄3(1594)年

「会の川の締切り」…利根川の東遷の始まりといわれています。羽生付近の会の川を締切り、乱流する流路を整理しました。

・慶長年間(1596～1614)年

「小名木川の開削」…江東から墨田付近の低地に小名木川が開削され日本橋までの水路網が整備されました。

・元和7(1611)年

「新川通の開削」「赤堀川の初開削」

…佐波から栗橋間の水路を新削し、利根川の本流を直接渡良瀬川へ落としました。また、栗橋から関宿間に幅7間の細い溝を初開削しました。

・寛永6(1629)年

「荒川の締切り、荒川の付替」「鬼怒川の付替」

…熊谷市で元荒川を締切り、瀬替えを行い、入間川、支川、和田吉野川へ、水海道付近から丘陵を開削して大木で常陸川へ落としました。

・寛永7(1630)年

「小貝川の付替え」「布川・布佐の開削」

…利根川の水量増加による舟運強化を目指すため、布佐・布川間の開削と小貝川の常陸川(現：利根川)への付け替えが始まりました。

・寛永12～18(1635～1641)年

「江戸川・逆川の開削」…江戸川の開削は、江戸時代初期で最大の工事の一つ。河川の流路や河道と全く関係ないローム台地を開削し、新しい河道をつけ、瀬替えを行いました。逆川は、利根川の流域をかえ常陸川へ落とすことを目的に開削されました。

・承応3(1654)年

「赤堀川の増削・通水」…増削を行ってきた赤堀川の通水により、利根川の流水が赤堀川へ注ぐようになりました。これをもって東遷・流域変更が完成しました。

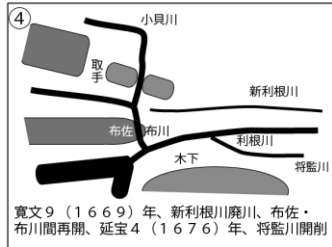
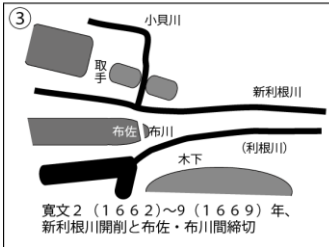
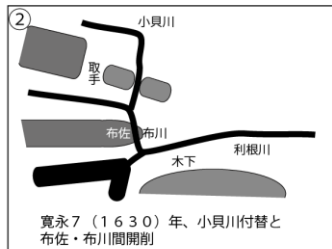
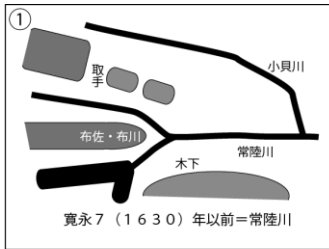
・寛文2～6(1662～1666)年

「新利根川の開削」「布佐・布川間の締切り」

…新利根川が開削され霞ヶ浦に直結されました。

・寛文9(1699)年

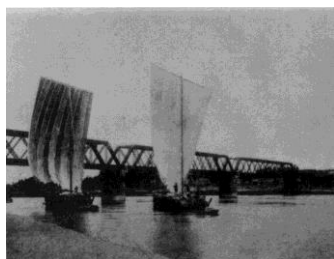
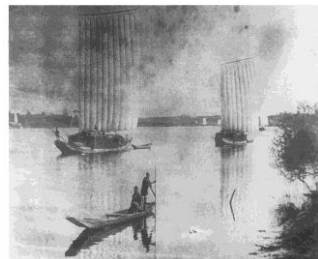
…手賀沼から印旛沼にかけての低地部の新田開発を意識した新利根川開削でしたが、旱害、水害により失敗。布佐・布川間の締切りが解かれました。



2. 利根川の船と運ばれたもの

約60年にわたる東遷事業が完了し、舟運が活発になりました。

利根川を航行した主な船は、高瀬船と呼ばれる帆掛船で、規模としては、大きいもので長さ約16m、米12俵(7200kg)ほど積むことができました。



領主の廻米をはじめ、大豆、煙草、木材、鮮魚、干物、塩、醤油、酒、酢、油、反物などが、関東、東北の物資として、利根川～渡良瀬川～江戸川～

小名木川を通過して江戸に輸送されました。樽廻船、菱垣廻船ルートの、いわゆる”下り物”と並ぶ重要なルートとなり、その結果、利根川には河岸と呼ばれる「川の港」が多く存在するようになりました。旧井上家住宅二番土蔵の礎石も江戸の石問屋から入手し、舟運で運搬されました。

3. 布佐河岸となりわい

◆布佐河岸と鮮魚街道（なまかいどう）

江戸の人口増加に伴い、鮮魚供給が需要に追いつかなくなったため、幕府は江戸近郊の漁場として銚子沖の鮮魚に目を付けました。銚子から江戸まで出来るだけ鮮度を保ち、短時間に輸送するために考えられたのが、「舟」と「馬」を利用する方法です。銚子から輸送された荷を、布佐で「馬」に載せ替え、手賀沼の北岸を通り、浅間前から手賀沼を渡り、白井から

松戸に至るルート、いわゆる『鮮魚街道』が開通しました。布佐からの鮮魚街道は、木下河岸からの木下街道と鮮魚の輸送をめぐる激しく競争しましたが、正徳6(1716)年に幕府より、「松戸まで付け通し」が認められ、布佐河岸からのルートが主流となりました。この背景には、手賀沼南部地域の新田開発（手賀沼干拓）が密接に結びついています。



◆舟運の衰退

網代場や魚河岸を備えた鮮魚の集積地として栄えた布佐河岸ですが、明治34(1901)年の成田線開通、昭和5(1930)年の利根川堤防改修工事の完成に伴い、河岸としての機能を失いました。

第2弾!!

9月例会で「布佐と洪水」をテーマにお話する予定です。お楽しみに(^o^)/^^

連絡・お知らせなど

●日誌って大切です

今回の月例会で、吉澤さんより「三樹会日誌」についてお話がありました。ガイドの皆様にも日誌をつけていただいていますので、少し前の日誌を読み返してみました。来荘者が少なく静まり返っていた日、来荘者が多くてんやわんやだった日、心待ちにしていた花の開花、害虫との奮闘、別荘についての改善案…などなど、旧村川別荘への愛を感じました。そして、貴重な情報を伝えてくださっていることに感謝。これからも引き続きよろしくお願いします。

●「竹灯籠の夕べ」について

10月5日(金) 6日(土)に行います。今年も、心に残るイベントにするべく頑張りますので、応援よろしくお願いします。

次回の月例会は・・・

次回は平成30年9月1日(土) 9時30分から旧村川別荘新館で行います(*^_^*)

今年の暑さはまだまだ油断できません。気象状況や体調などを確認しながら、ガイド活動に当たってください。